



東北生産性本部

労使定例政策研究会第3回例会開催



平成27年2月4日(水)開催 <38名参加>

★テーマ『東北電力企業グループのセキュリティリスク対応について』

★講師 東北インフォメーション・システムズ(株)

営業企画部 セキュリティ推進課

担当課長 今野恭範 氏、担当 本間淳平 氏

第3回例会は、東北電力企業グループで、情報システムの構築や運用アウトソーシング等を主な事業として展開している東北インフォメーション・システムズ(株)で、情報セキュリティ等の業務を担当されている営業企画部 セキュリティ推進課 担当課長 今野恭範 氏、担当 本間淳平 氏を講師にお招きし開催いたしました。

我々の生活には、ITが密着に結びついており、企業活動においてもかかせない存在となっている中、重要情報を不正に取得するサイバー攻撃などの被害が増大の一途をたどっており、日本は平成26年の標準型サイバー攻撃回数で世界3位となっています。一方では個人情報の漏洩など、今や一度の発生で、企業の社会的な信頼の失墜や多大な損害を発生させてしまうなど、そのリスクは極めて高いことから、今回の例会では、あらためてセキュリティ対応等について学び、認識を高めていく目的で開催しました。

今野課長からは、「前段として、現在、世界の中では、1秒間に1個のペースでウイル

スが作成されており、ウイルスバスター等の駆除ソフトも、これらの新しいウイルスには効果が薄くセキュリティを強化していく必要がある。

東北電力企業グループがセキュリティ強化を図った背景は、東北電力様が社会インフラを担う電力供給のための設備情報や、約 770 万口（平成 26 年 3 月末）ものお客さまの個人情報を有していること、さらにはこれらの情報を企業グループで連携しており、グループ全体での情報セキュリティ強化が必要であった。

各社まちまちであった情報セキュリティの P D C A サイクを統一し、各社が共通のチェックシートで点検し、それぞれが正しくリスクを把握し、チェック機能が有効に機能するよう、実態の「見える化」を進めるとともに、東北インフォメーション・システムズでは、各社のパソコン操作記録から、無許可の U S B 等の接続、私的利用が疑われるデータ保存、私的 W E B 閲覧、個人所有が疑われるドメインへのメール等について、ルール違反やウイルス検知等を日々監視点検している。

ウイルス侵入や私的使用などルール違反の疑いが発見された場合には、東北電力様や当該会社を通じ、端末利用従業員への直接指導や当該会社での再発防止対策の検討・実施等の指導を行っている。

ルール違反が疑われる場合には、従業員自らが正しくリスクを把握するよう、行為に対する直接の指導が効果的であり、ルールを定めて周知するだけでは効果が限定的であり、セキュリティ強化を図るためには、従業者自らが他人事ではなく、自分のこととして、正しくリスクを理解させ、しっかりとルールを守る「文化・風土」を定着させることがなによりも必要である」と話された。

本間担当からは、ウイルス駆除ソフトの種類・機能の説明のほか、新しいウイルスには必ずしも万全ではないこと。さらには、実際のウイルス数種類を起動させ、その内容紹介を行った。中には完全にパソコンデータや画面上もロックさせ、一度感染すると復旧が難しいタイプのウイルス等も紹介された。

また、実際に東北電力企業グループを標的に、ウイルスを仕込んだ電子メールの紹介等も行われ、参加者への注意喚起が行われた。

以 上

今後の労使定例政策研究会の予定について

多数参加くださるようご案内いたします。

例会	日 時	演 題 ・ 講 師
第4回	3月4日 14:30～16:00 東北電労会館	『パワーハラスメントを防止するには』 日本生産性本部ワークライフ部 主任研究員 網藤 正氏